

2019 年 6 月 19 日

インドネシア留学での学びと今後の展望

山梨県立大学
中村優花

1. インドネシアの文化・習慣・人柄について

同じアジア圏でもインドネシアと日本は全く異なる文化を持っています。山梨県で生活しているとインドネシア人と関わる機会はほとんどなかったのですが、留学当初は驚くことがたくさんありました。まず、人口は日本の 2 倍の 2 億 6 千万人（世界第 4 位）で平均年齢は 29 歳と少子高齢化が進む日本とは全く状況が違います。町を歩いていても、家族連れは何人もの子供を連れていて、どこに行っても若者ばかりです。そんな 2 億 6 千万人の人々はインドネシア政府から国民全員が宗教を選択し信仰することを定められています。そして、その中の 8～9 割がイスラム教徒であり、世界最大のイスラム大国です。ほとんどの女性はジルバブという被り物で頭を覆い、肌の露出はしません。一日 5 回メッカに向かってお祈りをして、豚肉やアルコールを代表とするハラム食品は口にしません。お祈りの時間の前にはアザーンという予鈴のような音が早朝 4 時ごろ町の至る所にあるモスクから鳴り響きます。インドネシアのショッピングセンターには必ず数カ所お祈り場所があり、友達と食事や買い物をしていてもお祈りの時間を作ります。女性はプールや激しい運動をする時でさえ、袖の長い服とズボン履いて、ジルバブで顔を覆い運動します。食事は、日本人よりは食べられるものが制限されていますが、ハラール認証されている食事がほとんどなので特に不自由はありません。インドネシア人は脂っこいもの、味の濃いもの、凄く甘いもの、凄く辛いものを好む傾向にあり、インドネシア料理のほとんどはそのような味付けです。人柄は凄くおおらかで親切な人が多いです。留学中に出会った他の国の留学生や旅行に行った隣国のシンガポール・マレーシア人と比較しても圧倒的にインドネシア人は優しくて社交的だと感じました。さらに、世界一の親日国と言われており、日本に対して良いイメージを持っている人が多く、日本語学習者も多いです。公用語はインドネシア語でアルファベットを使用し、英単語と似た発音が多いのでアジアの言語の中でも比較的簡単だと言われています。私自身、大学では英語を使って授業を受けながらも、生活や旅行のために 10 ヶ月間の学習で日常会話レベルまでインドネシア語を習得することができました。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

上記で述べたことは全てインドネシアで実際に生活してみて初めて知ったことや気づいたことです。留学を決めて関心を持ってインドネシアに行った私でさえ知らないことばかりなので、多くの日本人はインドネシアについて、ムスリムの習慣について全く知識がないのだろうと身をもって感じました。しかし、私たち日本人がインドネシアについて全くと言っていいほど知識がない一方で、現在多くのインドネシア人が訪日観光客として、また外国人労働者として来日しています。そしてその数は年々増加しており、今後も増え続けることが予想されています。山梨県も富士山を中心とした観光地でのハラル対応や、製造業などの今後外国人労働者が増える産業での柔軟な対応が必要になるのではないかと私は考えています。その時、私のように実際に現地で生活しインドネシア人の習慣や文化を理解した人材が必要になってくると思います。また、そのような人材が日本でインドネシアについて多くの人に情報を発信していくことが重要であると考えています。今後は卒業までに、留学中に自分が感じたことや経験したことを活かして、異文化理解力のあるグローバル人材として山梨県で自分の能力を活かせる場面を作り出したいです。

2. インドネシアの社会について

インドネシアの首都ジャカルタは、想像していたよりもはるかに発展していました。高速道路や電車などのインフラも整備され、高層ビルや大きなショッピングモールもたくさんあり、そこには日本車がたくさん走っています。ジャカルタは地価が高く富裕層の住宅や日系を始めとする外資系企業のオフィスが立ち並んでいます。2019年3月には日本の支援で地下鉄も開通しました。そんな発展した部分が増えていく中で、富裕層向けの大型ショッピングモールの脇には多くのスラム街が存在し、貧しい人もジャカルタでは多く見られます。これはインドネシアの大きな社会問題であり、東アジア最速で経済格差が広がっていると言われているのが現状です。インドネシアの中心であるジャカルタがこのような状況になっていることは留学に来るまで全く知りませんでした。日本政府は中古電車をインドネシアに寄付したり、地下鉄開通の支援をしたり、ODAで高速道路や学校施設を作ったりとインドネシアの発展のために支援していることも知りました。そのようなことから日系企業のインドネシアでのビジネスにも関心を持つようになりました。留學生活後半からは、様々な分野の日系企業にアプローチをかけ、企業説明や会社見学をさせていただく機会を得ました。山梨にいたら出会えない海外で働く日本人の方々と関わり、自分も海外で活躍してみたいと思うようになりました。商社やメーカー、新聞社、教育関係など

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

日本からインドネシアには様々な分野の企業が進出していることを知りました。中でも関心のあった、小売業の企業として AEON INDONESIA で1ヶ月間、マーケティング部に入りインターンシップをすることもできました。海外での日系企業としてのあり方やローカル社員の方との関わり、日本とは違うインドネシアでのマーケティングなどただの留学では知ることができないことをたくさん学ぶことができました。また、2018年は日本とインドネシアの国交樹立60周年の年であり、在インドネシア日本大使館も日本とインドネシアの繋がりのために色々なことを企画していることも知りました。特に毎年人気のジャカルタ日本祭りにはインドネシアで人気の日本のアーティストが参加したり、日本食の屋台が出たり、日本文化を体験できるブースがあったりと日本好きのインドネシア人を増やす仕組みを作り出していました。インドネシアで生活していくうちに、私自身もインドネシア人にもっと日本のことを知る機会を与えて好きになって欲しいと思うようになり、来年度のジャカルタ日本祭りの実行委員意見交換会に日本人学生で唯一参加させていただくこともできました。そこでは、これまでの生活で感じたことや、もっと広めたい日本の良いところと提案しました。大使館のイベントの実行委員会に参加できたことは、とても貴重な経験でした。また、普段生活しているデポックという地域ではローカルの中学校に訪問して英語の授業を代行するボランティアをしたり、近所の孤児院に訪問して子供たちと一緒に遊ぶ活動にも参加したりしました。ジャカルタで見る社会がインドネシアの全てではなく、宗教や教育、家庭の経済状況によって人々は全く違う生活を送っていることを自分の目で見て学ぶことができたことは自分のインドネシアに対する考え方を大きく変える体験になりました。また、留学中にはインドネシアの社会に影響を及ぼす大きなイベントがいくつかありました。一つ目は2018年8月にジャカルタで開催されたアジア大会です。アジアで最も大きなスポーツ大会が身近な場所で開催されたことも貴重な経験になりました。アジア中からジャカルタが注目され、インドネシアの存在をアピールする機会になっていると感じました。それに伴い、外国人用に英語表記の表札が増え、会場付近の交通アクセスが整備されていたので、2020年東京五輪を控えた日本と少し似た状況を感じました。また、私の留学していたインドネシア大学からは多くの優秀な生徒たちが通訳や大会運営にボランティアとして携わることができ、学生たちがグローバルに活躍する場所が作り出されていました。そして二つ目に、2019年4月には四年に一度の大統領選挙が行われました。日本とは違い国民投票で次の大統領が決めるので、大学生でも政治に関心がありそれぞれがしっかりと自分の意見を持っていました。自分も含め、日本の若い世代は政治に関心が薄いので、インドネシアの若者を見習わなければと思いました。世界から注目されたり、国の未来を決める大統領が変わったり、大

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

きくインドネシア社会が変化する場面を体感できたことも良い経験になりました。



中学校で英語の授業



孤児院への訪問

3. 大学での学びについて

留学先のインドネシア大学はインドネシアの東大と呼ばれる国内最難関大学です。学生の質は非常に高く、特に私の参加していたインターナショナルコースの学生たちは、日本の学生とは比べ物にならないくらい英語を流暢に話し、プレゼンテーション能力も高いです。私はこのような自分の能力を伸ばす最高の環境の中で、社会学政治学部・コミュニケーション先行の PR/広告コースを選びました。具体的にはコミュニケーション、マーケティング、PR、グラフィックデザインについて学びました。これまで山梨県立大学では学んだことのない内容の授業を英語で受けることに初めは戸惑いましたが、授業を慣れるに連れて徐々に理解できるようになりました。インドネシアは新興国ならではの社会問題や宗教的な問題を多く抱えているので、ソーシャルマーケティングの授業ではそういった背景も学ぶことができました。また、現在のインドネシアはスマートフォンの普及率の伸びが著しく、ソーシャルメディアのアクティブユーザーの数が世界ランクで上位に入っています。したがって、PR や広告の授業ではインターネットやソーシャルメディア用のトピックが多く扱われていました。山梨県立大学では学ぶことのできない学問も、インドネシア特有の例題を使って学ぶことができたので充実した学びになりました。そして、授業以外にもいくつかの活動を行いました。一つ目は、インドネシア大学の日本語学習者コミュニティが集まる場所に山梨県の観光 PR ポスターを貼ったり、インドネシア語の観光案内ブックを寄付したりしました。(ポスターはジャカルタ山梨県人

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

会から支給されました。)また、そのコミュニティに対して山梨県を紹介するプレゼンテーションを行い、日本語学習者の方々に山梨県に興味を持ってもらう機会を作りました。二つ目に、インドネシア日本人学生会に所属し、日本での留学や就職を考えているインドネシア人のための奨学金情報や留学先紹介をするイベントを企画運営しました。そのイベントには多くの日本に関心のある学生たちが集まってくれたので、インドネシア語で検索しても得づらい情報を中心に発信しました。そして三つ目に、ジョグジャカルタの観光 PR 動画の作成を手伝いました。私の所属するゼミ(観光まちづくり)に留学していたインドネシア人学生の依頼で日本人に伝わりやすい内容や場所を考えて一緒に動画を作成しました。その動画はジョグジャカルタにある旅行会社の PR 動画として使用されました。四つ目に、自分の留学生としての生活の様子を動画にして、留学生用動画コンテストに提出しました。その中では、インドネシア共和国の概要から留学生の 1 日の生活の流れまで細かく伝わりやすいように工夫して制作しました。また、インドネシア語もある程度習得できていたので、約 10 分間の動画に全てインドネシア語の字幕も付けて日本語学習者の人でも楽しんで観ることができるようにしました。動画コンテストの結果は全 164 作品の中から企業賞 (AirAsia 賞) に選ばれ、AirAsia 本社 (マレーシア) の見学ツアーの権利を得ることができました。インドネシア人に日本の魅力を伝える活動と同時に、この動画コンテストのようなインドネシア留学の魅力を日本に発信する活動に挑戦したことで、さらなるチャレンジの場を作り出すことができました。

大学での学びを通して、これまで関心を持ってこなかったことに興味が湧き、視野が広がったように感じました。それによってインターンシップでは、ソーシャルメディア用グラフィックデザインを任せて頂きました。インドネシア大学で学び始めたことを同時進行で日系企業で実践できたことは、私の学びをより深いものにしました。さらに、PR について深く興味を持つようになったので、インドネシアにある日系 PR 会社にインターンシップをお願いして、帰国後にもう一度インドネシアに行ってインターンシップをする機会を作りました。インドネシア大学で学んだことを、さらに実践的な場で活かして、自分の就職活動やこれからの未来に繋げていきたいと思えます。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書



インドネシア大学の留学生の集合写真

まとめ

この約 1 年間の留学では、山梨で生活していたらできなかった経験をたくさんすることができました。そして、インドネシア大学での学びや生活の中での気づきを通して、自分の興味関心の幅を大きく広げることができました。この 1 年間には国交 60 周年のイベントやアジア大会、地下鉄の開通、大統領選挙など日本とインドネシアの関係にとって大切なイベントやこれからの国の未来を決める大きなイベントがたくさんありました。大学内での学び以外でも、生活している中に新しい発見や勉強になることがたくさんありました。インドネシア人と接していくうちに、ムスリム特有の文化や習慣を学び、多様性や異文化理解力を身につけることもできました。インドネシア大学では、国内トップレベルの学生たちと英語を使って学んだりコミュニケーションをとったりして、生活の中では新たな言語としてインドネシア語を身につけることもできました。ジャカルタには多くの日系企業が進出しており、自分からアプローチして活動範囲を広げることで、日本にいる時よりも日本のことを知ることができたように感じました。学生ながらに日系企業の方にアプローチしてインターンシップを探したり、企業訪問に行ったりする経験は留學生活の中でも特に特別で貴重な経験になりました。大学での学びだけでなく、日常生活での気づきや、日系企業との関わり全てが私の視野をグローバルに広げてくれました。